

衣食住創～育む家～

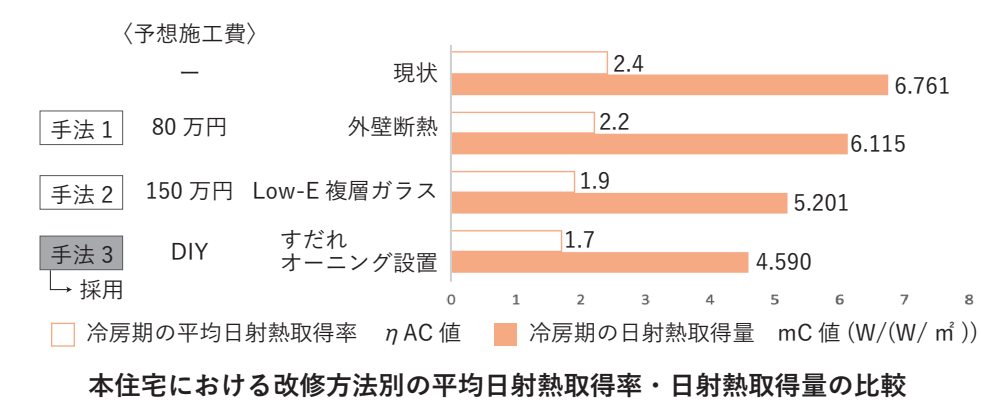


二重ドアの玄関からの光が降り注ぐLDK、床の段差と天井の仕上げで緩やかに空間が分かれている

「本当は木造の平屋とかで暮らしたかったんですけどね。」那覇の中心地に建つ、親から譲り受けた高層マンションの一室で楽しく住まうことはできないかという相談からこのプロジェクトが始まりました。クライアントからの要望である古き良き住まい方とは何か、この場所で快適に心地よく暮らせる住まい方とは何かを考えていくうちに、衣食住の中に創り上げていくという行為を加えた『衣食住創』というこの家族のカタチに辿り着きました。

- 自然素材を使用した家具や建築材料の選定** 家具や建具は天然木を主とし、住まいの中心に可動木造部屋を置くことで、高層マンションの中でも木造の温もりを感じられます。木の他にも、コンクリート、花ブロック、陶器、タイル、ガラスなどの素材感が感じられることを大切にしました。
- 物の使い方を最大限に活用する** 空間全てを初めから作り込むのではなく、生活に合わせて後から作り始める余白を残すことで、空間用途のバリエーションを増やすことが可能となりました。
- 手仕事と工芸品を尊重する** 家具や建具には、レトロタイルなどアップサイクルされた建材を多く利用しています。過度な照明は抑え、自然光を取り入れることで、これらの家具がより美しく浮かび上がる空間としました。
- 外との繋がりを考える** 室内の壁を取り払い、開口部同士に繋がりを持たせることで、外の景色に視線が行きやすくなります。共用廊下からバルコニーまでの通風経路を設けることで、家の中と外の空間とのつながりが強くなりました。
- 持続可能性と環境への配慮** 室内に自然の光と風を最大限に取り込み、自然エネルギーを上手に活用することで、消費エネルギー量の削減にもつながります。

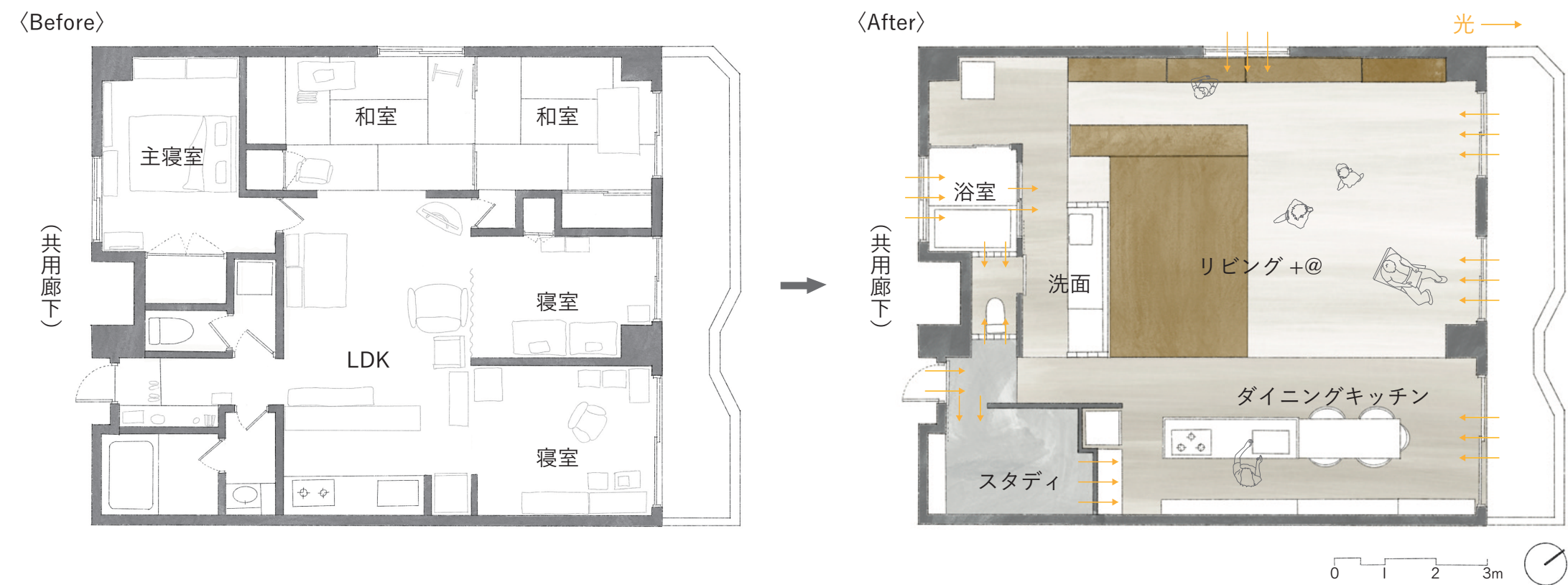
■蒸暑地域における省エネ改修



■未来に残すサステナブルなリノベーションとは

住環境の改善を目的とした住宅のリノベーションを行う際、主として断熱改修が行われていますが、この住まいでは日射遮蔽改修を検討しています。グラフからも分かるように、沖縄においては単に外壁や開口部の断熱改修を行うよりも、自然の風を生かして、すだれやオーニングで開口部に応じて日射遮蔽を行うことの方が効果が大きくなることがあります。今後、沖縄のような蒸暑地域で本当に必要な改修は何なのか考えていく必要があります。

■リノベーション平面プラン



■自然エネルギーの活用

元の住まいは築39年、LDKを5つの部屋が開んだ形の5LDK。最も西日の強い場所に主寝室があり、浴室は無窓で、トイレや洗面も照明を付けなければ昼間でも真っ暗になるといった状態でした。また、家全体でエアコンを3台稼働させても暑い部屋が存在するなど、その住環境は改善すべきものでした。温熱環境に着目すると、光は入るが熱は受けにくい北側の角部屋であり、最上階ではないため天井も日射熱を受けません。玄関を開けると高層階ならではの強い風が家中を吹き抜けます。他の住人の方々も、共用廊下側の玄関ドアは少し開けており、この風を活用した暮らし方が見受けられました。

西日が当たる主寝室の位置を浴室とし、自然の力でカビを抑制できるようにしました。また、個室化された部屋の壁を取り払って空気溜まりを無くし、現在ある開口部からの光や風といった自然の恵みを家中に散りばめられるプランとしています。玄関は二重にして、セキュリティを確保した採風採光ドアを室内側に設けたため、安心してドアを開けたまま暮らすことができるようになりました。

(上) 玄関に設けた鍵付きの二重ドア (下) 西日でカビを抑制する左官仕上げの浴室(*)→

■可動木造部屋

既存の壁を取り払い、コンクリートの部屋の中に3坪の木造の箱を設置しました。この箱を最大限に活用することで、可変性のある住まいを実現しています。心地よい木の香りが、風とともに家中に広がっていきます。

- ①自由な開口
- 壁の3箇所は自由に入れ替えが可能です。窓にしたり、出入り口にしたり、完全に閉じたりと空間のレイアウトに合わせて操作することができます。



↑開口位置の変更例(*)

- ②登れる屋根
- 花ブロックや取り付けたはしごから屋根面に登ってロフト的な使い方も可能で、居住面積を増加させることができます。



↑洗面の壁は木造部屋と同じ高さ側面の花ブロックは梯子にもなる

- ③加工が簡単
- 木造のため、棚を追加するなど後からでも容易に加工することができます。自分好みに作り込んでいくこともひとつの楽しみとなります。



↑棚や照明が追加されている(*)



可動部屋と収納を隣り合わせて配置



可動部屋を部屋の隅に寄せて配置



可動部屋をリビングの中心に配置



家族の生活とともに空間も変化する(*)



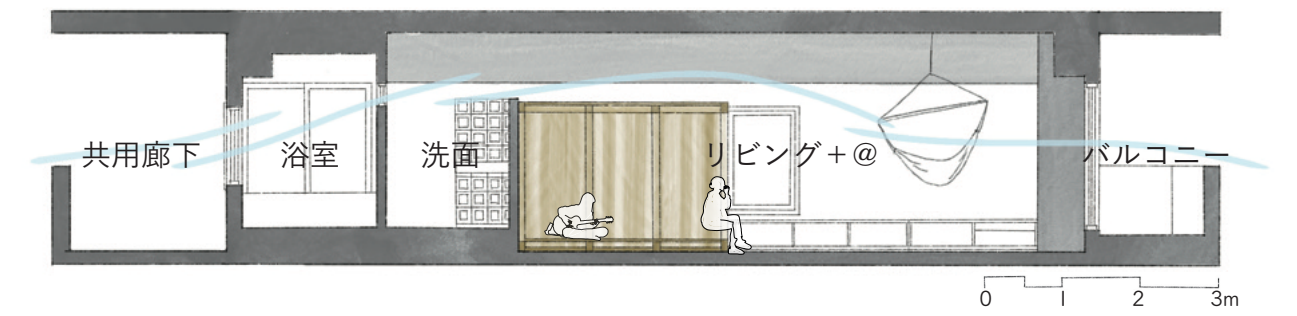
部屋にも子供の遊び場にもなる可動木造部屋(*)



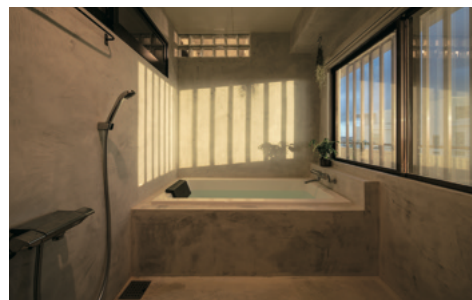
大開口のそばの食卓に家族が集う(*)

■断面構成

洗面の壁を低く設定し、浴室に窓を2箇所設けることで、共用廊下からバルコニーに向かって風の通り道を作ることができる断面構成としました。また、室内を区切る壁には高窓を設け、天井は光を反射する素材とすることで、各開口部から入ってきた光が部屋全体に行き届きます。この場所が持っている光と風という環境を最大限に活かす工夫をしています。



↑室内の各所に高窓を設けて部屋全体に光を届ける。左から浴室、トイレ、スタディールーム。



■職人の手仕事とこだわり

室内の家具や建具には、古民家などの解体される建物から発掘された欄間や手作りガラスをアップサイクルしたものを採用しました。手に触れられるところには職人の手仕事を取り入れ、それらが後世に引き継がれていくことを願っています。



古民家の欄間をアップサイクルした食器棚

過去と現在の職人による合作の家具



トイレのドアにはめだレトロタイル

光のゆらめきが感じられる大正ガラス

■住まいと健康を考える

自然光を室内に取り込むことは、照明エネルギーを削減できる他に、人体のリズムを整える効果があると言われています。この家族のお子さんは、この住まいに引っ越してから、コロナ禍でなかなか外出できずとも室内で十分に遊び回ることができています。加えて、室内の照明も必要最低限の数に減らしているため、陽が落ちるとともに眠くなり、早寝早起きができるようになったそうです。

■建物概要

建築名称	：マンションリノベーション	構造・規模	：SRC造
所在地	：沖縄県那覇市	総戸数	94戸 13階/14階建
用途	：住宅	専有面積	96㎡
建築主	：個人(夫婦+子供3人)	主な内部仕上げ	：床 遮音フローリング +コンクリート金網仕上
設計者	：松田まり子建築設計事務所	内壁	モルタル金網押え
設計者	：Level one design	設計期間	：2021年8月～2022年2月
家具・建具	：株式会社 南碧想庵	施工期間	：2022年2月～2022年8月
木造	：株式会社 創木工所	撮影	：(*) 石井紀久
キッチン	：有株式会社 モブ	実績	：沖縄県建築賞
左官	：隆左官店		タイムス住宅新聞社賞
竣工	：1984年(築39年)		